

コロナ禍を克服し、国民のいのちと健康を守るための意見書

新型コロナウイルス感染症拡大は、日本国内でも経済活動や国民生活に深刻な影響を及ぼすと共に、「医療崩壊」が取り沙汰され、国民のいのちと健康が脅かされる事態が広がっている。

この感染症対応の経験から明らかになったことは、感染症病床や集中治療室の大幅な不足と、それらを中心的に担っている公立・公的病院の重要性、医師・看護師・介護職員の人員不足、保健所の体制不足の問題などである。これらの諸問題の背景には、1990年代後半から続いてきた医療・介護・福祉など社会保障費の抑制策や、公衆衛生施策の縮小があると考えられる。

21世紀に入り、わずか20年の間に、SARS、新型インフルエンザ、MERS、そして今回の新型コロナウイルスと、新たなウイルス感染症との戦いは短い間隔で求められ、今後も新たなウイルス感染症への対応が必要になることは明らかである。

新型コロナウイルス感染症対策を強化し、国民のいのちと健康、暮らしを守るためにも、そして新たなウイルス感染症や自然災害などの事態に備えるためにも、医療・介護・福祉、そして公衆衛生施策の拡充は喫緊の課題である。

よって、当市議会は、国に対し、下記事項について強く要望する。

記

- 1 今後も発生が予想される新たな感染症拡大などの事態にも対応できるよう、医療・介護・福祉に十分な財源確保を行うこと。
- 2 公立・公的病院の統合再編や地域医療構想を見直し、地域の声を踏まえた医療体制の充実を図ること。
- 3 安全・安心の医療・介護提供体制を確保するため、医師・看護師・医療技術職・介護職等を大幅に増員すること。
- 4 保健所の増設・保健師等の増員など公衆衛生行政の拡充を図ること。また、ウイルス研究、検査・検疫体制などを強化・拡充すること。

と。

5 社会保障に関わる国民負担軽減を図ること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和3年6月17日

喜多方市議会議長 坂内 鉄次

【意見書提出】

衆議院議長	大島	理森	殿
参議院議長	山東	昭子	殿
内閣総理大臣	菅	義偉	殿
内閣官房長官	加藤	勝信	殿
財務大臣	麻生	太郎	殿
総務大臣	武田	良太	殿
厚生労働大臣	田村	憲久	殿
内閣府特命担当大臣（地方創生）	坂本	哲志	殿